兵庫保険医新聞

第1504号
2006年10月15日

発行所　兵庫県保険医協会
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078・393・1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133
(会員の購読料は会費に含まれています)

■平和が大切の共感ひろめて

――九条の会 香山リカ講演に160人

「世の中が不寛容になってきている」香山リカさん（精神科医・作家・帝塚山学院大学教授）は弱肉強食がまかり通るようになった日本社会に警鐘をならした。「改憲はいまどきの常識？　狙われる、みんなの意識」と題した講演は、協会と九条の会兵庫県医師の会が主催したもの。西宮フレンテホールに160人が参加し、平和への取り組みや狭隘なナショナリズムが受け入れられる背景を考えた。

「弱者に不寛容な弱肉強食の社会になってきた」と警鐘をならした香山リカさん（左）の講演に聞き入る参加者（下）

「もともとは漫画好きなオタク」と自称する香山さんが社会問題で発言するようになったのは、サブカルチャーに詳しい精神科医として埼玉幼女殺人事件の宮崎被告や須磨児童殺傷事件での酒鬼薔薇少年についてコメントを求められるようになってから。90年代以後、犯罪者の特殊な心性ばかりが強調され、事件の社会的背景が全く語られなくなったことに違和感を感じたという。また、医師として統合失調患者を退院で地域にかえす際、不動産の周旋を断られるなど、「弱者にかまってられない」状況への社会変化を実感。グローバリゼーションの下で金儲けがクリエイティブだと賞賛される一方で、多数の「儲けられない人」への配慮やフォローが全く語られない状況に危機意識を持つにいたったとした。

同氏は、02年W杯で日の丸・君が代を抵抗なく受け入れる若者の、国・国家と自己の垣根の低さとナショナリズムにまとわりつく「優越感」が政治家に利用されはしないかと著書『プチナショナリズム症候群（中公新書ラクレ）』で警告したが、06年のW杯ではナショナリズムの是非すら全く論じられなくなった現況は異常と訴えた。

その上で、こうした一連の流れの中で「改憲」や「美しい国」が論じられ、「歴史の転換点に立つ」という「大きな物語」が政治家に捏造されていると、「無邪気なナショナリズム」の拡大に懸念を表明した。

そして、憲法を守るためには、幅広い層が共感できるよう戦略的に平和を求めるアプローチが必要、平和をとりまく事態は厳しいが、「オタクも安心してゲームができる世の中」をまもるために、努力しようと訴えた。

医療関係九条の会から発言

医療分野の九条の会の取り組み交流では、尼崎医療生協九条の会から小杉尚先生、京都医師の会から森良太京都歯科保険医協会理事長、兵庫県医師の会から冨永弘久先生が、この間の取り組みや平和憲法への想いを報告、弁護士9条の会の羽柴修弁護士は11月3日に開催されるイベント「はばたけ9条の心（案内3面）」への協力を訴えた。

第15回日常診療経験交流会

10月29日（日）10時～17時
兵庫県農業会館　11階ホールほか

◇記念講演　15時～17時
日常診療を豊かに
～患者さん・家族・地域とともに
札幌医科大学地域
医療総合医学講座　山本　和利教授

◇医科・歯科・薬科交流企画　13時30分～15時
「抗凝固剤投与中の患者への対応」

◇救急フェスター心肺蘇生法＆外傷処置　10時～15時
「人工呼吸・心臓マッサージ（ＢＬＳ）」「ＡＥＤ」「気道確保・挿管」「医薬品」「外傷処置」VTR・DVD上映など

◇３つの分科会（プログラム次号）　10時～12時25分
メインテーマ、在宅ケアでの経験など一般演題

◇並行企画　10時～17時
ポスターセッション、あなたとわたしの展示会
情報ネットワークコーナー、医院新聞展示ほか。

◇参加無料（昼食代1,000円、懇親会3,000円実費）

お申し込みは ☎078－393－1801 FAX078－393－1802まで

加西市　市民病院の医師不足でフォーラム開催

加西市は9月30日、加西市民会館大ホールで「加西病院市民フォーラム」を開催、市民など800人が参加した。加西市での医師不足は、市立加西病院で今年6月の産科廃止につづいて泌尿器科も対象となる中、2万数千の反対署名が市に提出された状況で開かれたもの。主催は市を主体とした実行委員会で、加西病院長のほか市長、市議会議長、PTA会長、医業コンサルタントの5氏がパネリストとして発言。医師不足の状況を市民に説明した。

山邊裕加西病院長は基調講演で、勤務医の月残業時間が100時間に達し限界を超えているが、研修医の争奪戦が激しいことや、同病院の生き残る道として、①北播の7つの公立病院全体で医療機能を分担する②淘汰型で競争に委ねる③どこかの総合病院がセンター病院となり、他はサテライト病院とするなどの3案が考えられるとしたが、いずれも決定的な案とは言えず、療養病床の再編が落ちつくまで生き残るしかないと強調。医師、看護師の確保に全力をあげるが、市民の受診はできるだけ昼間のうちになど、市民の協力を呼びかけた。

加西市連合PTA会長の鴨川浩志氏は、産婦人科病棟改装に昨年夏2千万円かけた直後の閉鎖に疑問を呈し、経営の中・長期的な計画を求めた。コーディネーターの米田秀志副院長は、患者と医療提供者、市民、行政、病院職員が協力し、市民病院を支えていこうとまとめた。

産科・小児科医不足など地域医療を支える方策を討論した

開業保険医の支え　休業保障制度守ろう

共済部長　中井通治

今春4月1日の「新保険業法」施行により、協会の「休業保障制度」も同法の適用対象とされたため、現在、新規・増口の加入受付を停止しております。

協会は昨年来、「休業保障制度」をはじめとした自主共済の適用除外を求める運動に取り組むとともに、保全対策も同時に進めています。9月の金融庁交渉では、現在の制度内容を可能な限り維持する方法として、保険会社への委託が可能であるとの回答を引き出すなど、一定の進展が生まれてきています。

協会では、こうした状況を前進させていくために、現在開かれている臨時国会に向けて、「保険業法の適用除外を求める請願署名」に緊急に取り組むことを決め、協会会員の皆様に署名用紙をお送りしました。

3月にご協力いただいた金融庁への「要請書」に続く今回の「請願署名」は、国会での審議を求めるもので、先生はじめご家族、職員、患者さんにもご協力いただくことが可能です。ぜひとも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「保険業法の適用除外を求める請願署名」にご協力下さい

※さらに署名のご協力がいただける方は、共済部☎078－393－1805までご一報ください。

中３まで医療費を無料に
もう届きましたか？
こども署名
ご協力ください

燭心

医療者不足が深刻になり、そのため関連病院の医者を大学に引き揚げ、結果、関連病院で医師不足をきたすようになっている。産婦人科や小児科は以前から減少が顕著だったが、さらに深刻な医師不足をきたすようになった。卒後研修医を使えばよいとの意見もあるが、はっきり言って戦力にならない▼色々な科を数カ月単位で研修しても、一人前になるのは無理。実地訓練の伴う見学と言うべきだろう。昔のインターンのようなものかもしれないが、同制度は医師不足を招いていなかったから、今回のほうが深刻だ。医局の横暴や研修の効率の悪さの改善、若い医師の人権保障のための制度らしいが、とんでもない状況をもたらした▼ところで、最近大学の教育は非常に効率が悪く、日本の医師の臨床能力が低くなっているとの意見をよく聞く。筆者は日本の医師は劣悪な診療報酬のもとでよく頑張っていると思う。平均寿命が世界トップクラスなのは医療関係者の努力と世界に誇る医療保険制度の賜物だ。米国は先端医療の水準は世界一だが、保険制度の不備のおかげで平均寿命は日本より短い▼私見では、大学では基礎医学を徹底的に学び、健康な状態と病的状態の違いを知るべきだろう。基礎を頭にたたき込んでから、実地応用の臨床訓練を受けるべきだ。医学知識なくして病気を知ることはできず、病気を知らずして治療はできない。（海）

卒後2年間の臨床研修が話題になっている。この制度ができてから大学病院

兵庫保険医新聞

第1505号
2006年10月25日

発行所　兵庫県保険医協会
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078・393・1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133
(会員の購読料は会費に含まれています)

第15回日常診療経験交流会プログラム

6面

本紙チラシ同封

第70回評議員会　11/19(日)

第29回共済制度委員会・臨時(決算)総会

ひろがれ「こども署名」

神戸元町宣伝行動

協会は10月14日、「こども署名」の街頭宣伝行動を元町商店街東口で実施。口分田勝理事らを先頭に15人が参加し、「安心して子育てができるよう、中学卒業までの医療費完全無料化と30人学級の実現を求める署名に、ぜひご協力ください」と呼びかけた。宣伝には兵庫県民主医療機関連合会、日本共産党兵庫県議団からも参加があった。

親子・家族みんなで署名する姿も

署名チラシを配布し、ハンドマイクを使っての今回の行動では、1時間足らずの短時間にもかかわらず、135人分の署名が集まった。少子高齢化の進行や人口減少がさけばれるなか市民の関心は高く、口分田先生をはじめ、毛利りん県議、中村まさひろ県議が「安心して子育てできる社会にしましょう」「子どもは社会の宝。一人ひとりを大切に」「不安定雇用の親の増加や格差社会の広がりの中、給食費が払えない児童までいる」など、子育て支援が必要と訴えると、週末のショッピングを楽しむ地元兵庫県民や他府県からの観光客など、子どもづれの家族だけでなく、孫のいるお年寄りまで幅広い人々が次々と足を止め、署名に応じた。

夫婦や子ども全員の名前を書き込んだ親子づれは「小さい時だけでなく、中学卒業まで医療費がいらなくなれば少しでも助かる」「少人数の学級で、子ども一人ひとりに先生の目が届くようになれば」とスタッフを励ましたほか、「カンパです」と千円を託す市民もあらわれ、こども署名の主旨への共感の声が広がった。来月11月11日にも同様の街頭宣伝が予定されており、協会では行動への参加を呼びかけている。

【お願い】

9月末に会員医療機関に送付した署名の第1次集約は11月中旬です。ご協力いただいた署名用紙を協会までご返送ください。

10・9 〝こども署名〟推進学習会

――池内理事長が報告

「こども署名」推進のための学習集会が10月9日、兵庫県民会館で開催され、県下の医療、教育、婦人団体などを含め各地から85人が参加。協会からは、同署名の呼びかけ人の一人である池内春樹理事長と、武村義人副理事長、林祐介理事ら7人が参加した。

二宮厚美神戸大学教授による講演「子どもの環境と大人の役割」では、塾など学校以外に費やす教育費用の差で、小学校6年生では算数の平均点に40点もの差がついている実態などが紹介され、講師は格差社会における雇用・所得格差の影響が子どもの健康・学力の格差を生んでいることを解明した。さらに、学校教育には、先生と子どもとのコミュニケーションを通じて行われる「学び」が不可欠であり、これが市場化の波で切り崩されることへの問題を指摘した。

集会では医療、教育分野からそれぞれ現場報告が行われ、医療現場からの報告を行った池内理事長は「子どもの健康にとって、心配ごとがあればいつでも、かかりつけ医に相談できることが大事。お金の心配なく医者にかかれる環境を整えることが必要」と話し、医療費無料化の重要性を訴えた。(関連記事2面)

九条の会・兵庫県医師の会インタビュー ⑦

なりふりかまわぬ覚悟が必要

神戸芸術工科大学特別教授　香山リカ先生の巻

「『九条の会』アピールを支持する医師・医学者の会(全国)」の第2次呼びかけ人で、新たに「兵庫県医師の会」世話人を快諾した、神戸芸術工科大学特別教授の香山リカさん(精神科医・作家)を武村義人副理事長がインタビュー。改憲の動きと平和への思いを聞いた。

聞き手武村　義人副理事長

武村　「憲法」「9条」だけで拒絶反応を起こす人たちを、どうすれば「九条の会」にひきつけられるでしょう。

香山　「爆笑問題」の太田光さんが勇気を出して対談集『9条を世界遺産に』を出版されたが、戦略的シンボル、若い世代にアピールできる仕掛けがいるのでは。スピリチュアルカウンセラーの江原啓之さんはオカルトの批判もあるが、実は大変な平和主義者。靖国参拝も批判しています。既存の勢力だけでなく彼らと対話し、巻き込まないと。小泉さんのプレスリーの真似は馬鹿みたいに見えるが、あれ位なりふり構わずパフォーマンスをする覚悟がなければ、国民は振り向いてくれないんじゃないでしょうか。

武村　そういう意味では本の世の中が変わった」とおっしゃいますと。

香山　国内的には酒鬼薔薇事件、オウム真理教など社会を揺るがした災害や事件が発生し、長期不況下でのリストラなど「明日はわが身」という雰囲気が醸成され、人々が他者を思いやることができない状況に追い込まれた。世界的にはグローバリズムの流れから「稼ぐが勝ち」「大競争時代」といわれ、都市生活の中で「いつ禍に巻き込まれるかもしれない」という不安感が増大、「自分の身は自分で」「弱いものに構っていられない」という時代になった気がします。

武村　治安の悪化や、自殺者が毎年3万人を超えるなど、弱肉強食の政策と社会保障の切捨てが人々を不安に駆り立てています。格差社会の広がりが社会を殺伐としたものにしていますね。私たちは医師として、命と平和を何よりも大切にしたいと考えています。

香山　平和が大事、戦争はいけないと思っている人は多いが、9条とか護憲というと「そういうんじゃない」となります。「護憲」に特定のイメージがまとわりついているのは不幸なこと。私も個人の立場で発信しているが、極左とか売国奴呼ばわりされるときまであります。発言しにくい雰囲気が社会にあって、不気味です。

武村　そういう意味では「革新」「護憲」の枠組みを越え、9条を守る一点で賛同を呼びかけています。実感するのはテレビの影響が大きいこと。拉致問題や猟奇的な事件ばかりに国民の目が向けられています。なんとなく改憲のムードが振りまかれて、なぜ、どこを変えなければならないのか議論になりません。

香山　「改革を止めるな」のスローガンのように、国民は何か「変えなきゃ」とあせらされています。また、リベラルの人たちが決して現代の若者たちを救ってこなかったという反省も必要。『ゴーマニズム宣言』などの強い主張や歴史観にすがりたい気持ちを汲み取って、応えてゆく。若者が単にダメなんじゃなく、J・F・リオタールが指摘した「大きな物語」に飢えている状況があることを理解したいですね。

武村　確かに、貧困に対処しなければ理性が働かなくなり、ファシズムに向かう危険性があります。束ねたがられている若者へのアプローチもいりますね。

香山　都会に住んでいる若者は格差社会の「下層」にいること自体、自覚できないでいます。貧困化の結果、「ケータイ代が払えない」事態に直面したときにどうなるか。政府の政策に反対して立ち上がるのか、さらに大きなものにすがろうとして、排外主義にはしる危険性もあるんです。

武村　差別発言を繰り返す石原都知事が全く非難されない、ほんとに危険な状況が進行している今、もっともっと、多くの人たちに平和の大切さを訴えてゆきましょう。

プロフィール　帝塚山学院大学教授、神戸芸術工科大学特別教授。1960年生まれ、東京医科大学卒、専門は精神病理学。臨床医としての経験を生かし、新聞、雑誌、社会批評、文化批評を発表。『プチナショナリズム症候群』中公新書ラクレはじめ著書多数。

燭心

▼早秋の一日薬科部の「ならの自然・歴史・三輪そうめんを食す」第4回文化企画に参加させていただいた。安堵町の歴史民俗資料館ではイグサのずいをきれいに引き抜いてローソクの灯心にする実演を初めて見た。富本憲吉記念館では、副館長さんから地域の豊かな財力が才能ある若者の能力を開花させたというお話をうかがった。印象深かったのは「憲吉が東京に出ると、東京の空には赤い人絹がよく似合い、赤いカスリは野暮ったく見えた」というお話だ。憲吉はインテリアデザインにも興味を持っていたそうだが、文化は環境に支配されるお話とうかがった▼お昼は麺ゆう館で、手延べ素麺(そうめん)作り。みんな真剣に手延べうどんを素麺にと引っ張る。面白かったのは、八の字がけのうどんを引き伸ばしたあと大きなお箸を使って一本いっぽんの素麺に分ける作業、グルテンの弾力で結構力がいる。みんな頑張って素麺団子にならずに済んだ▼渋滞の中春日大社に着くと、万葉植物園(神苑)で樹医の喜多先生からたくさんの資料を使ってお話をうかがった。ほとんど薬草が咲いていないのが残念だったが、リンドウの可憐な姿をみることができた。若草山や角きりを終えた鹿をみながら渋滞の中帰途についた▼薬科部の先生方にはいつもお世話になっている。一つお願いがある。ジェネリックを求める患者さんのために、研究部と、安心して患者さんに勧めることのできるジェネリックのリストを作っていただきたい。(水)